

清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略の取組状況（平成 30 年度）等について

1 清須市人口ビジョン及び清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略について

(1) 清須市人口ビジョン

- 清須市の人口の現状を分析し、人口に関する市民の認識を共有し、今後の目指すべき将来の方向と人口の将来展望を示すもの（対象期間：2060（令和 42）年）。
- 「低調な観光・交流人口」、「若年層の人口流出・定住化」、「高齢化の進展」といった清須市の人口動向に関する課題を踏まえて、次のとおり人口に関して目指すべき将来の方向を設定。

【清須市の人口に関して目指すべき将来の方向】

方向性①	地域資源を生かして地域の活力を高める
方向性②	若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
方向性③	シニア世代が元気でアクティブに暮らせる地域をつくる
方向性④	安全・安心で快適に暮らせる地域をつくる

(2) 清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略

- 「清須市人口ビジョン」で提示する人口に関する目指すべき将来の方向の実現に向けて、清須市が有する特性や抱える課題を踏まえて、平成 28 年度～令和元年度までの 4 年間の基本目標、施策の基本的方向及び具体的な施策をまとめたもの。
- 基本目標ごとに数値目標を設定するとともに、具体的な施策ごとに、施策の効果を客観的に検証できるようにするため、重要業績評価指標（KPI）を設定。

【清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略の基本目標】

基本目標①	地域資源とシビックプライドを核として活力あるまちをつくる
基本目標②	若い世代が子育てしやすいまちをつくる
基本目標③	シニア世代が元気でアクティブに暮らせるまちをつくる
基本目標④	安全・安心で快適に暮らせるまちをつくる

2 清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略の取組状況（平成 30 年度）について

基本目標① 地域資源とシビックプライドを核として活力あるまちをつくる

【目標】

本市が有する歴史・自然を中心とする地域資源を積極的に活用するとともに、シビックプライドの醸成と、その牽引役となる人材の育成や活躍を促進することを通じて、地域の活力を高めるとともに、魅力発信の取組を推進し、交流人口の拡大を図る。

〔数値目標の状況〕

数値目標	基準値	現状値	目標値	達成度 (S～Dの5段階)
休日の滞在人口率の向上	1.94 倍 (平成 26 年)	—	2.2 倍 (令和元年度)	—
	0.88 倍 (平成 26 年度)	0.89 倍 (平成 29 年度)	0.93 倍 (令和元年度)	C やや目標達成困難
数値目標の考え方	県内他市町村と比較して低い水準にある「人口に対する休日 14 時時点の滞在人口割合」の年間平均値について、平日並までの向上を目指す。			
数値目標に対する評価	15 歳以上 80 歳未満の平成 27 年国勢調査人口 53,217 人に対して、休日の月平均滞在人口（14 時時点）の平成 29 年度平均人数は 47,110 人（0.89 倍）となっている。 6 月は「尾張西枇杷島まつり」の開催等に伴い、48,138 人（0.90 倍）と最も高くなっているが、他の月はおおむね 0.87～0.89 倍で推移している。目標の達成には、年間を通じた恒常的な交流人口の拡大が必要であり、現時点では目標達成は難しいが、引き続き清洲城及び清洲貝殻山貝塚資料館への誘客促進や観光情報発信の強化等に努めていく。			

〔施策の基本的な方向〕

- 清洲城や 3 本の川（庄内川・新川・五条川）が有する豊かな水辺環境等の積極的な活用を図る。
- シビックプライドの醸成と、その牽引役となる人材の育成や活躍を促進するとともに、地域住民を核とした地域の活力向上及び魅力発信に向けた仕組みの構築を進める。
- 名古屋駅から至近の距離にある本市の特性を生かして、ショートトリップ観光やインバウンド（訪日外国人旅行）観光を促進するため、観光アクセスの充実や、観光情報発信力の強化に取り組む。
- 地域における創業者を支援し、地域の活性化、雇用の確保を目指す。

〔KPIの状況〕

■施策① 歴史・自然を中心とする地域資源の積極的な活用

KPI	基準値	現状値	目標値	達成度 (S~Dの5段階)
清洲城及び清洲貝殻山貝塚資料館の合計入場者数	85,204人 (平成27年)	66,007人 (平成30年度)	120,000人 (令和元年度)	D 目標達成困難
ふるさと納税による寄附件数	900件 (平成28年度当初予算)	4,447件 (平成30年度)	2,700件 (令和元年度)	S 目標以上を達成

■施策② シビックプライドの醸成と人材の育成

KPI	基準値	現状値	目標値	達成度 (S~Dの5段階)
清須学講座の累計受講者数	— (平成28年度事業開始)	172人 (平成30年度末)	160人 (令和元年度末)	S 目標以上を達成
清須マイスターの累計認定者数	— (平成28年度事業開始)	32人 (平成30年度末)	40人 (令和元年度末)	B 目標達成に向けて順調に推移

■施策③ 観光アクセスの充実

KPI	基準値	現状値	目標値	達成度 (S~Dの5段階)
あしがるバスのバス停「清洲城」の乗降者数	227人 (平成27年)	461人 (平成30年度)	500人 (令和元年度)	B 目標達成に向けて順調に推移
「きよすあしがるサイクル」の1日あたりの利用者数	2.8人 (平成27年)	1.5人 (平成30年度)	3.8人 (令和元年度)	D 目標達成困難

■施策④ 観光情報発信力の強化

KPI	基準値	現状値	目標値	達成度 (S~Dの5段階)
清洲城及び清洲ふるさとの館における「Kiyosu Free Wi-Fi」のアクセス件数	131件 (平成27年) ※10月~12月	2,902件 (平成30年度)	5,000件 (令和元年度)	D 目標達成困難
清洲城の外国人入場者数	— (未集計)	2,291人 (平成30年度)	3,500人 (令和元年度)	D 目標達成困難

■施策⑤ 創業支援の促進

KPI	基準値	現状値	目標値	達成度 (S~Dの5段階)
平成28年度中に「創業支援事業計画」を策定	—	平成28年5月策定(北名古屋市・豊山町と共同で国に認定申請の上、認定。)	平成28年度中に策定	A (概ね)目標を達成

基本目標② 若い世代が子育てしやすいまちをつくる

〔目標〕

若い世代にとって暮らしやすく、安心できる地域づくりに向けて、安心して妊娠・出産・子育てができる環境を整備する。

〔数値目標の状況〕

数値目標	基準値	現状値	目標値	達成度 (S~Dの5段階)
年間出生数の現状維持	700人 (平成18~27年までの10年間における年間出生数の平均値)	759人 (平成30年度)	毎年度700人以上の出生数を維持	B 目標達成に向けて順調に推移
数値目標の考え方	本市の合計特殊出生率は全国平均や愛知県平均と比較して高い水準にあるため、現状の年間出生数の水準を引き続き維持することを目指す。			
数値目標に対する評価	出生数は、平成28年度741人、平成29年度795人、平成30年度759人となっており、目標達成に向けて順調に推移している。全国的には生産年齢人口が減少している中で、清須市では生産年齢人口の規模を維持しており、これまで子育て環境の充実に注力してきた結果といえる。名古屋大都市圏に位置するという清須市の強みを生かしながら、特に子育て世代にとってより魅力的な環境を整えて、定住を促進することにより、年間出生数を維持に努めていく。			

〔施策の基本的な方向〕

- 健やかな子育てのため、その準備期間である妊娠期から、切れ目のない支援を推進し、出産に対する不安や負担の解消を図り、出産しやすい環境の整備を進める。
- 多様化する保育ニーズや保護者の就労状況の変化に対応し、質の高い保育・教育を提供することにより、子育て支援サービスの充実を図る。
- 子育てに関する情報提供・相談体制の充実や、地域による相互援助を推進するとともに、子育てに対する経済的な負担の軽減を図る。

〔KPIの状況〕

■施策① 安心して妊娠・出産ができるための支援

KPI	基準値	現状値	目標値	達成度 (S~Dの5段階)
パパママ教室の参加者数	290人 (平成27年)	321人 (平成30年度)	300人 (令和元年度)	S 目標以上を達成
一般不妊治療費助成金の受給者の内、母子健康手帳の交付を受けた者の割合	26.8% (平成26年度)	22.0% (平成30年度)	基準値より増加 (令和元年度)	C やや目標達成困難

■施策② 子育て支援サービスの充実

KPI	基準値	現状値	目標値	達成度 (S~Dの5段階)
病児・病後児保育の利用者数	392人 (平成27年)	444人 (平成30年度)	600人 (令和元年度)	C やや目標達成困難
放課後児童クラブの利用者数	75,299人 (平成27年)	100,981人 (平成30年度)	85,000人 (令和元年度)	S 目標以上を達成
放課後子ども教室の利用者数	32,996人 (平成27年)	34,543人 (平成30年度)	36,000人 (令和元年度)	B 目標達成に向けて順調に推移

■施策③ 育児環境の整備

KPI	基準値	現状値	目標値	達成度 (S~Dの5段階)
スマートフォン用アプリ及び子育て特設Webサイトの合計アクセス件数	— (平成28年3月に事業開始)	41,243件 (平成30年度)	33,600件 (令和元年度)	S 目標以上を達成
子育て支援センターの利用者数	25,794人 (平成27年)	35,984人 (平成30年度)	30,000人 (令和元年度)	S 目標以上を達成

■施策④ 子育てに対する経済的な支援

KPI	基準値	現状値	目標値	達成度 (S~Dの5段階)
子ども医療費支給の継続実施	実施中 (平成27年)	継続実施 (平成30年度)	継続実施 (令和元年度)	B 目標達成に向けて順調に推移

基本目標③ シニア世代が元気でアクティブに暮らせるまちをつくる

〔目標〕

シニア世代が元気に、その有する高い能力や豊かな経験を生かしてアクティブに暮らせる地域づくりを進める。

〔数値目標の状況〕

数値目標	基準値	現状値	目標値	達成度 (S~Dの5段階)
要介護認定率の抑制	15.6% (平成27年末)	15.9% (平成30年度末)	17.5%未満 (令和元年度末)	B 目標達成に向けて順調に推移
数値目標の考え方	「清須市高齢者福祉計画・第6期介護保険事業計画」(平成27~29年度)では、令和2年に要介護認定率が17.5%になると推計しているが、シニア世代が元気でアクティブに暮らせる地域づくりを進めることにより、その抑制を目指す。			
数値目標に対する評価	介護保険制度の改正により、平成29年度から「介護予防・日常生活支援総合事業」が開始したことに伴い、一部のサービス利用に要支援認定が不要となったこと等により、要介護認定率は概ね横ばいとなっている。 制度改正によって、数値目標の達成は可能と見込まれるが、あくまでも、目標はシニア世代が元気でアクティブな状態をつくることであるため、まずは安心な暮らしのために、「医療・介護・予防・住まい・生活支援」が一体的に提供される「地域包括ケアシステム」の構築を実現するとともに、シニア世代の活躍の場づくりに努めていく。			

〔施策の基本的な方向〕

- シニア世代の社会参加の促進を図るとともに、活動の場の一つである市内の市民活動団体・ボランティア団体の活性化に向けて、市民協働の更なる推進を図る。
- 高齢者が住み慣れた地域において、生涯現役として暮らしていけるよう、医療・介護等の切れ目のない支援を推進するとともに、高齢者の健康づくりを促進する。

〔KPIの状況〕

■施策① シニア世代の社会参加の促進

KPI	基準値	現状値	目標値	達成度 (S~Dの5段階)
60歳以上の清須マイスターの累計認定者数	— (平成28年度事業開始)	24人 (平成30年度末)	20人 (令和元年度末)	S 目標以上を達成
シルバー人材センターの会員数	442人 (平成27年末)	425人 (平成30年度末)	456人 (平成29年度末)	D 目標未達成

■施策② 市民協働の推進

KPI	基準値	現状値	目標値	達成度 (S~Dの5段階)
平成28年度中に拠点づくり、市内部の推進体制のあり方の検討	—	平成28、29年度に検討を行った上で、平成30年度から企画政策課内に市民協働係を設置し、取組を推進	平成28年度中に検討	A (概ね)目標を達成

■施策③ 地域包括ケアシステムの構築

KPI	基準値	現状値	目標値	達成度 (S~Dの5段階)
地域に適合した地域包括ケアシステムの構築	—	平成30年度から介護予防・生活支援サービス事業を再編するなど、取組を推進	毎年度実施	B 目標達成に向けて順調に推移

■施策④ 官学連携による介護予防・健康づくりの推進

KPI	基準値	現状値	目標値	達成度 (S~Dの5段階)
らく楽運動教室を実施する自主グループ累計数	15グループ (平成27年末)	—	25グループ (令和元年度末)	—
平成29年度から「介護予防・日常生活支援総合事業」が開始したことに伴い、官学連携による高齢者向けの運動教室である「らく楽運動教室」の事業再編を行ったことにより、計画策定時と同様のデータが取れないため、計画策定時と同様の考え方により次のとおり基準値・目標値を設定し、検証を行う。				
清須市民げんき大学の累計受講者数	—	51人 (平成30年度末)	70人 (令和元年度末)	B 目標達成に向けて順調に推移

基本目標④ 安全・安心で快適に暮らせるまちをつくる

〔目標〕

名古屋大都市圏に位置する本市の強みを生かして、安全・安心で快適に暮らせる都市基盤や環境の整備を進める。

〔数値目標の状況〕

数値目標	基準値	現状値	目標値	達成度 (S~Dの5段階)
人口の社会増の継続	社会増 (平成27年)	175人の社会増 (平成30年度)	社会増を毎年度継続 (令和元年度)	B 目標達成に向けて順調に推移
数値目標の考え方	転出や転入等に伴う社会増減数について、本市においては経済動向や社会的な出来事の影響により、年によって大きな変動があることから、平成27年の社会増の傾向を、今後も継続させることを目指す。			
数値目標に対する評価	平成27年以降、社会増が続いている状況である。今後もこの傾向を維持するためには、名古屋市に近接する好条件を生かして、居住地としての魅力の向上に努めていく。			

〔施策の基本的な方向〕

- 平成12年9月の東海豪雨災害の記憶を風化させることなく、水害に強い安全、安心なまちづくりを進めるため、河川・排水対策の充実を図るとともに、地域防災の担い手の確保に取り組む。
- 公共交通の利便性が高い鉄道駅を中心として魅力的な空間を整備するため、市街地整備等を推進するとともに、だれもが移動しやすいまちの実現に向けて、公共交通の充実を図る。
- 人口減少等による公共施設等の利用需要の変化を踏まえ、公共施設等の最適な配置に向けた検討を進める。

〔KPIの状況〕

■施策① 河川・排水対策の充実

KPI	基準値	現状値	目標値	達成度 (S~Dの5段階)
公共下水道(雨水)整備の進捗率(整備済延長/事業計画延長)	[二ツ杵幹線] 76.27% (平成27年度末見込)	[二ツ杵幹線] 100.00% (平成30年度末)	[二ツ杵幹線] 100.00% (令和元年度末)	A (概ね)目標を達成
雨水ポンプ場の長寿命化(耐震・更新)事業の進捗率(執行済額/基本協定額)	[堀江ポンプ場] 6.07% (平成27年度末見込)	[堀江ポンプ場] 22.61% (平成30年度末)	[堀江ポンプ場] 27.29% (令和元年度末)	B 目標達成に向けて順調に推移
	[豊田川ポンプ場] 4.82% (平成27年度末見込)	[豊田川ポンプ場] 39.36% (平成30年度末)	[豊田川ポンプ場] 50.00% (令和元年度末)	

■施策② 地域防災の担い手の確保

KPI	基準値	現状値	目標値	達成度 (S~Dの5段階)
自主防災組織のブロック単位(全38ブロック)での設置	36ブロック (平成27年末)	36ブロック (平成30年度末)	38ブロック (令和元年度末)	C やや目標達成困難
消防団員の定員確保(条例定数293人)	283人 (平成27年末)	287人 (平成30年度末)	293人 (令和元年度末)	B 目標達成に向けて順調に推移

■施策③ 市街地整備等の推進

KPI	基準値	現状値	目標値	達成度 (S~Dの5段階)
土地区画整理事業実施計画に基づく事業の推進	[清洲駅前] 平成27年度より着手 [新清洲駅北] 平成27年度より着手	[清洲駅前] 調整池築造工事など (平成30年度) [新清洲駅北] 整備工事、建物等移転補償など (平成30年度)	[清洲駅前] 事業の完了 (令和6年度) [新清洲駅北] 仮線跡地整備及び換地処分等を除く事業の完了 (令和5年度)	B 目標達成に向けて順調に推移

■施策④ 公共交通の充実

KPI	基準値	現状値	目標値	達成度 (S~Dの5段階)
「きよすあしがるバス」の1便あたりの利用者数	オレンジ5.0人 グリーン4.8人 サクラ5.4人 (平成27年)	オレンジ4.8人 グリーン5.9人 サクラ6.9人 ブルー3.6人 (平成30年度)	オレンジ5.6人 グリーン5.7人 サクラ6.2人 (令和元年度)	B 目標達成に向けて順調に推移
「きよすあしがるバス」の認知度	89% (平成27年)	88% (平成30年度)	98%以上 (令和元年度)	C やや目標達成困難

■施策⑤ 公共施設等の総合的かつ計画的な管理の推進

KPI	基準値	現状値	目標値	達成度 (S~Dの5段階)
平成28年度中に「公共施設等総合管理計画」を策定	—	平成29年3月策定	平成28年度中に策定	A (概ね)目標を達成
令和2年度までに「個別施設計画」を策定	—	「個別施設計画」策定作業の進捗	令和2年度までに順次策定	B 目標達成に向けて順調に推移